



神戸電鉄粟生線の存続のために①

粟生線の現状

廃線の危機意識広がらず 抜本的改革は？

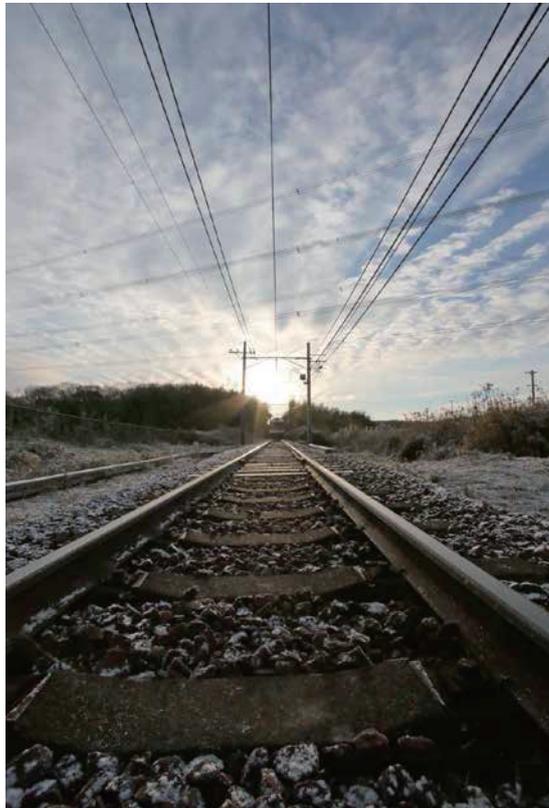
🚋 廃線なら土地価格の
下落や道路渋滞も

1月末、市長選を前に、新聞各紙に小野市の課題として取り上げられた神戸電鉄粟生線の存続問題。

同線は、自家用車などの移動手段を持たない高校生や、神戸方面への通勤利用者らにとってなくてはならない公共交通機関です。

もし廃線になれば、これまで鉄道を利用していた方が代替手段として自家用車などに転換することで周辺道路が渋滞。また土地価格が下落するなど、粟生線を利用していない方にとっても少なからず影響が出ることを考えられます。

少子高齢化と人口減少が進む中で、地域の移動手段をいかに確保するか、同線の存続は、切実な問題となっています。20、30年後の小野市を見据え、粟生



写真奥は、朝日に向かって走る新開地行き電車（市場駅近くで）

線の重要性について、今一度考えてみます。

🚋 利用者数の半減と
10年以上10億円の赤字

粟生線は、小野、三木、神戸の3市にまたがる、鈴蘭台駅から粟生駅を結ぶ全長29・2キロの路線です。

昭和27年の開通から60年以上

もの間、地域住民の通勤や通学などに欠かせない移動手段として、北播磨地域と阪神地域を結び運行しています。

また同線は、粟生駅で北条鉄道やJR加古川線と接続。県内の重要な交通ネットワークを形成しているため、大規模な災害時などには他の鉄道の迂回路としての役割も担います。

ただ、車社会の進行などで、

年間利用者数は、ピーク時の1、420万人（平成4年度）から年々減少し、現在では672万人と半減しています。

さらに経営面でも、10年以上、年間10億円の赤字が続いていて、存続の危機や廃線などがささやかれるまでに経営状況が悪化しているのです。（次号へ続く）

※利用者数と赤字額は神戸電鉄提供資料から

▼問い合わせ先 交通政策グループ（☎③1404）



乗って残そう！
粟生線サポーターズくらぶ

会員募集中！（第3期 昨年9月⇒8月）

正会員 2,000円
家族会員大人 1,200円
小学生以下 600円



会員特典

- ① 粟生線サポーターズくらぶ会員証
- ② 粟生線サポーターズくらぶフリーパス1枚
- ③ くらぶ加盟店で割引や特典
- ④ 「粟生線乗ろうDAY！」プログラム参加スタンプを集めるとオリジナルグッズ進呈